

〈2〉 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか

〈〈大学全体〉〉

大学・学部・研究科等の理念・目的については、本学構成員（教職員及び学生）のみならず、各種媒体により社会に向けて公表している。本学公式ホームページ「本学の情報」サイト内「神奈川大学の基本方針」において公表し《資料 I-9 No. 2》、その他、刊行物としては、履修要覧《資料 I-5》を通じて教育研究上の目的、教育目標、基本方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー）を在學生に伝え、本学の建学の精神、理念の理解を促進する事を目的とし、環境整備や研究を含む大学諸活動に関わる様々な方針をまとめた「神奈川大学の基本方針」《資料 I-3》を 2011 年度以降毎年、年度初めに刊行し、非常勤講師を含む全教育職員・事務職員及び全国約 5,200 校の高等学校に配付している。また、受験生対象として「入学試験要項」「CAMPUS GUIDEBOOK」(大学案内)、「大学院案内」、さらに、法人全体の概要と活動状況を記載した、日英両語による「学校法人神奈川大学総合案内」に掲載し、広く社会に公表している《資料 I-10~12》。

また、本学においては、大学の歴史と建学の精神を学ぶための「自校史教育」を行い、授業により本学の理念と目的の周知を図り、それをふまえて教育及び学修を展開する取り組みを行っている。その一つとして初年次教育科目「FYS (ファースト・イヤー・セミナー)」において新入生全員を対象として少人数セミナーを実施し、大学の歴史、沿革を学ぶ時間を設けている《資料 I-13~14》。また「共通教養科目人間形成の分野」として「神奈川大学の歴史と建学の精神—大学と学生—」を専任事務職員が兼任（非常勤）教員として担当し、自校史を主たる内容とする講義を開講している。これらの授業を通して大学の理念や目的の周知を図り、本学の沿革や教育・研究・社会貢献活動について講義し「自校」に関する理解を深めるよう努めている。

2014 年 3 月に横浜キャンパスに新設された 3 号館には神奈川大学展示ホールを配置し、ミュージアム機能を備えた公開施設が完成した。創立者・神奈川大学史展示室、神奈川大学日本常民文化研究所展示室、企画展示室から構成され、本学の理念周知及び教育研究の創造的成果を社会に還元する場となっている《資料 I-15》。

〈〈1 法学部〉〉

本学部の教育研究上の目的、教育目標等を記載した履修要覧を新入生に配布し、本学部教員が新入生の入学時に行われるオリエンテーションの際にこれを説明し、周知を図っている。また大学ホームページへの掲載、さらに「学校法人神奈川大学総合案内」「CAMPUS GUIDEBOOK」を通じて、本学部の理念・目的等を公表している。

〈〈2 経済学部〉〉

本学部の教育理念・目的は、経済学部のホームページに掲載されており、同時にカリキュラムの中にも反映されている。教員に対しては教授会や本学部の自己点検・評価委員会の審議、報告により周知されている。学生に対しては特に入学時の履修ガイダンスやクラス説明会において、また導入科目としての FYS において教育理念・目標の確認を周知徹底している。

理念・目的の大学構成員への周知は、履修要覧に記載されており、機会があるたびに確認と検討が行われている。また社会への公表は、「学校法人神奈川大学総合案内」に経済学

部の教育目標が明記されており、「CAMPUS GUIDEBOOK」では卒業生の声を載せて学部教育の理念・目的の紹介を行っている。

《3 経営学部》

本学部の教育理念・目的は学生に向けた履修要覧に記載され、新入生のみならず在學生にも周知徹底がなされている。また、学部独自に開設しているホームページには、同理念・目的がいわゆる3つのポリシーとして公開されており、受験生やその保護者を含め社会一般に情報が公表されている。

《4 外国語学部》

本学部の教育理念・目的は、在學生に対しては履修要覧や学科別ガイダンスにより周知している。受験生はじめとする一般社会に対しては、案内パンフレット「CAMPUS GUIDEBOOK」や外国語学部ホームページにより周知している。

高校生に対しては、オープンキャンパスで本学部の教育目的やカリキュラムの概要を伝えている。中国語学科は、毎年年度末に卒論の要旨をまとめた「中国語学科卒論文集」を刊行し、入試の指定校推薦依頼対象校に送付しており、学科の教育内容を社会に示すうえで大いに役立っている。

《5 人間科学部》

本学部・学科の理念や教育目標の学生に対する周知は、入学時に学科主任及びコース主任の実施するガイダンスや、1年次前学期開設の必修科目である「人間科学概論」《資料I-16 人間科学部シラバス p.57》において説明すると共に、「CAMPUS GUIDEBOOK」、履修要覧、シラバスにより行っている。教職員も、教授会や研修会、日常の自己点検活動、非常勤講師との懇談会等で教育目標の確認、共有を行っている。

社会への周知としては、大学の開催するオープンキャンパスでの模擬授業や、高校との連携事業（出張講義）に加え、夏期休業中に専任教員が高等学校や企業を訪問し学部の教育目標や理念を伝えている。さらにインターネットによる情報公開も実施しており、本学部オリジナルサイトにおいて、学部の目的やコースの紹介、カリキュラムや教員の紹介など様々な情報を公開するほか、Facebook や Twitter などの SNS を通じた情報提供も実施している。

《6 理学部》

理学部の理念・目的については、理学部ホームページを中心として社会に広く周知すると同時に、毎年 사이트情報の更新及び理学部広報誌「SCIENTIA」《資料I-17》の編集が理学部の教員全員にとっての再確認の機会となっている。学生に対しては新入生ガイダンスで理学部の理念・目的を入念に周知している。また、オープンキャンパス等で高校生には理学部パンフレット《資料I-18》を配布している。

《7 工学部》

本学部の教育研究上の目的、教育目標は、「神奈川大学の基本方針」《資料I-3》、履修要覧、ホームページで大学構成員を中心に広く社会一般にも周知を行っている。また、受験生を送り出している高校に対して「神奈川大学の基本方針」を送付して周知を図るとともに、ホームページによって社会一般に公開している。

《8 法学研究科》

本研究科の理念・目的は神奈川大学ホームページに掲載されており、各種大学院案内や

入学試験要項に記載されている。学生には入学時のガイダンスにおいて配付・説明しており、教員には研究科委員会等で随時配付・説明している。

《9 経済学研究科》

本研究科は理念・目的を履修要覧・シラバス、大学及び本研究科オリジナルサイトを通じて、教職員、大学院生、社会に公開するとともに、常に新しい情報を提供している。大学院新入生に対しては、入学時のオリエンテーションで履修要覧・シラバスや大学院学修スタートガイドを配付して説明している。また、広報課では、本研究科を含めた総合的な案内として「大学院案内」を発行し、そこでも教育の理念・目的を掲げ、周知を図っている。

《10 経営学研究科》

大学院案内、履修要覧、神奈川大学公式ホームページ、オープンキャンパスでの入試説明会などにより本研究科の理念・教育内容等について周知・公表している。

湘南ひらつかキャンパス大学院開設 20 周年を記念して、「大学院開設 20 周年 大学院で何を学ぶか」《資料 I-19》という冊子を理学研究科と共同で発行した。

《11 外国語学研究科》

本研究科の理念・目的は、冊子版の履修要覧において「教育研究上の目的」と「教育目標」とによって教職員と学生とに周知されている。同一の内容は、本学公式ホームページ上の「外国語学研究科履修要覧」により社会に公開されている。本研究科の「教育研究上の目的」と「教育目標」は、本学公式ホームページの「外国語学研究科」のページでも、社会に公表されている。さらに、受験生は、「大学院案内」によって、本研究科の「教育研究上の目的」と「教育目標」とを知ることができる。

《12 人間科学研究科》

本研究科の教育研究上の目的と教育目標は、履修要覧・シラバス、「神奈川大学の基本方針」「大学院案内」、ホームページ「神奈川大学 一本学の情報」、大学院人間科学研究科ホームページ、毎年 7 月に実施している大学院入試説明会などで大学構成員（教職員・学生）及び社会に情報公開を実施している。

《13 理学研究科》

本研究科、各専攻の理念・目的・教育目標などは、大学院履修要覧、「学校法人神奈川大学総合案内」、本学ホームページ、理学研究科ホームページ、「大学院案内」などで周知されている。その他、英文案内として「Guidebook Kanagawa University」がある。また、理学研究科新入生に対しては、4 月初めに開催される理学研究科及び各専攻での新入生ガイダンスで説明している。

《14 工学研究科》

本研究科の理念・目的は、冊子版の大学院履修要覧・シラバスにおいて「教育研究上の目的」と「教育目標」とによって教職員と学生とに周知されている。同一の内容は、本学公式ホームページ上の工学研究科履修要覧により社会に公開されている。本研究科の「教育研究上の目的」と「教育目標」は、本学公式ホームページの「工学研究科」のページでも、社会に公表されている。さらに、本研究科は本学公式ホームページとリンクするオリジナルサイトを運用しており、そのサイトにおいても「教育研究上の目的」と「教育目標」が社会に公表されている。これらに加えて、受験生は、「大学院案内」によって、本研究科

の「教育研究上の目的」と「教育目標」とを知ることができる。

《15 歴史民俗資料学研究科》

本研究科の理念・目的、入試概要、就職実績などの公表は、以下のとおりである。①本研究科ホームページ、②歴史民俗資料学研究科パンフレット《資料 I-18》、③「大学院案内」、④大学院履修要覧。これらは、すべて毎年更新している。その他、新入生ガイダンスを行い、周知徹底を図っている。

なお、2010年度から開講した「歴史民俗学総論」は博士前期課程1年生の必修科目として、本研究科の入門的役割を果たしている。在校生にとって本研究科の理念・目的を理解する最良の場である。

《16 法務研究科》

本研究科の専任教員間では、研究科委員会、FD活動等の機会を通じて、理念・目的を繰り返し確認し、兼担及び兼任教員に対しても、履修要覧等の関連資料の送付や、学年末に行う懇談会での意見交換・懇親の機会を通じて理解を深めている。また、本研究科が作成する紀要等の刊行物やホームページ等を通じて教職員や学生等の学内構成員への周知を図っている。

学外に対しては、法科大学院進学説明会・相談会の機会を利用しているほか、本研究科が作成するチラシやホームページ等を通じて理念・目的の周知を図っている。また、各出版社が刊行する大学院ガイドブック、法律雑誌、新聞等において積極的に情報発信を行っている。